

No. 15

1989

5月20日発行

萩の郷

発 行 者
下 市 田 区

発行責任者
下 井 武 平

印 刷
下市田・キタバヤシ印刷



平成元年のししひき（左より 西村大輔君、林 秀樹君、山田浩平君）



ししひき

小学生
林 秀樹（四区）

いよいよ本番だ。
ドキドキするなあ。

「さあ〜い。」
さあはじまりだ。

市田駅の時分、気もちわるくなると中でやめてしまったけど。こんどは、だいじょうぶだ。

梅王がおわったぞ。

いよいよぼくの番だ。

キンチョーするなあ。

「あやさあ〜さい、さいい。」

よし、ここがみせどころだぞ。

ひもを引くところだ。

まだまちがえてないぞ。

次は松王にひもをわたすぞ。

松王にひもをわたした。

少し歩いた。

また松王からはじまった。

と中で休みがあつて、ぼくたちはとりいをくぐった。

どんどん歩いて行つた。

ここでもまたおどった。

けいだいの前のかいだんのところでまたぼくにひも

がわたされた。

今までに四回もまちがえてしまっている。

もうまちがえられない。

次はひもを引くところだ。

ひもを松王にわたした。

そしてかいだんをのぼった。

終っておまいりをした。

ぼくの一生一代の大しごとがすんだ。

区の情勢について

区長 下井 武 平

一、裁判について、昨年十二月二十日に結審となり、本年三月三十日判決の予定でしたが、裁判官の都合で延期となり、今のところ判決の期日は未定であります。

二、土木工事については、六十三年度工事中、唐沢川バイパス（鉄道横断）が施工中です。

三、新堤の釣堀り利用については、町と区の間で覚書を交換する事で、水利権者及び堤附近耕作者の了解を得て着工致しました。

四、ニューアーズ残渣のヘイ獣処理場への埋立てについては、近辺の皆様や下流の皆様の御理解に依り、条件付にて承諾致しました。

五、工業団地については、去る四月一日(有)小笠原鉄工が操業を始め、又三月迄に残り数社の契約が完了、ここに一切の事務上の手続きが完了致しました。

六、平成元年一月より、代議員始め区の各委員・常会長・公民館三役及び各委員の組織が変わりました。

今後それぞれの任期中、大変御苦労様ですが、区のために御活躍、御骨折をお願い致します。

×××

15名の新代議員決定！ どうぞよろしく

就任御挨拶

会長 高橋 武市

新年度の代議員会において、代議員会長の役をお引受けする事になりました。区の行政に関しましては、二年間部落選出の代議員として参加させて頂いただけで、経験も浅く、其の器で



下市田区も一一〇〇戸を越す大世帯になり、其の規模も大型化され、小さな村なみになって参りました。区の三役を中心に代議員十五名、公民館関係三名参加の上協議され、各委員の皆様の協力で運営されております。何時も区長さんの云っておられる様に、公平な区政をモットーに、区の発展に協力して参り度いと思

っております。

最近一五三号線沿線の発展、第二工業団地の完成操業等、町の総合振興計画に依る、農・工・商の調和のとれた町作りが進行しつつあります。こう云った環境のもとに、生活様式も都会なみになり、個々の連帯感もうすれて行く様な気が致します。毎年行われている萩山神社の祭典、納涼大会、公民館の諸活動に積極的に参加しコミュニケーションを計られて行く事が、連帯感を深め、区の発展につながる事と確信致します。

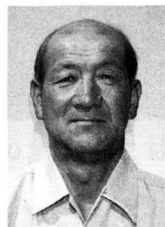
皆様のご協力をお願い致します。



酒井 正市



倉沢 岩雄



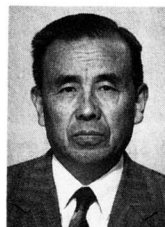
富田 隆仁



林 喜代重



中村 利徳



北島 剛



唐沢 今朝男



熊谷 忠彦



市岡 治男



宮下 政司



原 文治



原 正



田戸 純市



原 昭夫

萩山神社献詠歌

平成元年 春季祭典 (順不同)

新しきわらじしっかりと踏みしめて 童子ら雄々しく獅子にま向かう

福 島 光三郎

獅子によるむら人の顔みなよしと 帰省の息子がしみじみと言う

串 原 喜代枝

萩山の松にうつろひ彼岸桜 祭となりて開かむとする

藤 松 定子

萩山の社のさくら咲き満ちて 獅子ひく稚子らに花ふぎ舞ふ

寺 沢 玉枝

真新らし獅子の頭に平成を 祝ふ祭りにさくら咲き満つ

田 戸 純市

誕生の祝に招ばれ幼な子の足の運びのたしかさを見る

塩 沢 秀子

・萩山神社氏子総代紹会及び挨拶は七面に掲載してあります。

公民館事業にご協力を

下市田公民館長 唐澤 武文



ことは出来ず、新しい手法が必要となって来ました。「遊創美感」をテーマに各部とも楽しい事業づくりに務めます。

区民の皆様のご支援を心よりお願い致します。

公民館長

退任あいさつ

原 次郎

平成元年度より、下市田公民館の新役員をお引き受け致しました。諸先輩の皆様が造られた数々の業績を少しでも発展出来たらと微力ながら考えております。本年度よりは各部落に一名ずつの「公民館部落主事」さんを設けて頂きました。いずれも地域の優秀なる方々で、コミニティーに、公民館行事にとって心強い限りです。

公民館事業も近年の「ニーズの多様化」から逃れる

去年十二月末をもって館長を退任させていただきました。在任期間を振り返りますと、浅学のためにやり残した点も多く、唯反省するばかりでございます。これからは生涯学習の立場から公民館の役割が更に重要になって参ります。組織面では各区を分館としての位置づけが具体化して参るものと思われま。

どうか各地域の皆様方のよりあがった独自性のうえに有意義な事業が推進できますようお願いいたしております。

大へんお世話様になり、ご協力賜りましたことにつき厚くお礼申しあげ退任のご挨拶といたします。



副館長 田口 正幸



主事 上沼登志子

林務委員会



野神 昭三

楽しみある森林作り

今期私達十二名が、林務委員としてお世話になる事になりました。区民の皆様ご理解ある御協力をお願い致します。

区の山林状況は約三十二haで、この内桧林は六haです。ここ四、五年この手入れを重点的におこなってまいりましたが、今春の山作業ではほぼ終了する事が出来ました。

今後は町の造林計画に基づき、未手入れ地の改植をしていく方針です。一方作業だけに招集される山だけでなく、何か楽しみのある森林作りも、これからの方向として考えたいものです。

×××

各委員長紹介

水利委員会



湯沢 佐一

委員長あいさつ

々となされてきていますが、水路に関しては未だ立ちおくれの状態が多々あると思われま。

此の度、水利委員長の大任をうけまして、もとより微力でございますが、水利事業に関して、委員の皆様をはじめ区民の皆様御協力を頂き、事業の推進に務めてまいりたいと思ひます。

町内各所の道路整備は着

×××

土木委員会



村沢 利美

委員長あいさつ

藤の花の香る候となり、野や畑に毎日お忙しい日々を、お過ごしと思ひます。教養部から、原稿を依頼され、土木委員長のあいさつを、と言われ一言述べさせていただきます。

私ごときが重責務を受ける器では有りませんが、他五名の委員さんとチームワークで任務を果たしたいと思ひます。

下市田区の道路は、他の区より道路が少し遅れぎみの様な感じがします。今区長さんこの問題に取り組んで居ます。どうか道路改良工事に係る土地権者の方々の御協力をお願いし、区民の皆さんの御指導、御鞭撻をお願い致します。

厚生委員会



北沢 貞男

環境の美化を

風薫る新緑の季節を迎え、区民の皆様にはますます御健勝にてお過ごしのことと心よりお喜び申し上げます。平成元年度と共に、厚生委員とし委員長役を仰せ賜り誠に恐縮に存じます。私もとよりの未熟で無才なのでお引き受けるような姿ではありませんが、皆様方のお力添えを頂き、任務を努める次第でございます。

新しき年を迎え、高森町の美化運動として春期・秋期の清潔の検査、河川の水を守る様浄化槽設置の普及や、あちこちで目立って多くなった空缶・ビン等の処理、一般廃棄物の収集方法、時間の徹底推進に頑張る決意でございます。

皆様方の御指導と御支援を賜りますようお願い致します。ごあいさつと致します。

消防委員会



小林 猛 邦

委員長あいさつ

本年度消防委員長という大役をお受け致しましたが何分にも微力ではありますが一生懸命頑張るつもりですのでもよろしくお願い致します。

先日消防署員との懇談会があり、最近の火災状況を見て高森が多発地区で、しかも下市田に多くの火災が発生しています。原因を見るとコンロ類、次いでタバコの火の不始末が多く、各家庭でも気を付けていただければ九〇％以上は火災から守る事が出来る訳です。

『その火、その時、すぐ始末』本年は我が下市田区から火災『ゼロ』であります様よろしくお願い致します。



平成元年度 下市田区一般会計歳入歳出予算書

平成元年3月23日 議決

1. 収入の部

区 分	本年度 予算額	前年度 予算額	比 較	説 明
1. 区 費	12,240	12,240	0	個人法人区費 道路改良基金
2. 繰 入 金	8,021	8,021	0	地域振興基金利息
3. 町支出金	3,000	3,800	- 800	各種事業補助金、その他
4. 財産収入	1,000	1,000	0	貸地料、その他
5. 寄 付 金	2,000	2,600	- 600	各種事業地元負担金 その他
6. 消防義務金	1,500	0	+1,500	消防義務金(今期より移行)
7. 諸 収 入 金	1,600	1,600	0	山作業出不足金 他
8. 前期繰越金	1,000	1,000	0	前年度繰越金
合 計	30,361	30,261	+ 100	

2. 支出の部

(単位 千円)

区 分	本年度 予算額	前年度 予算額	比 較	説 明
1. 総 務 費	9,862	11,219	-1,357	別 紙
2. 厚 生 費	597	587	+ 10	別 紙
3. 林 務 費	1,530	1,490	+ 40	同
4. 土 木 費	3,370	7,060	-3,690	同
5. 水 利 費	2,715	4,005	-1,290	同
6. 消 防 費	2,395	1,478	+ 917	同
7. 公 民 館 費	2,791	2,666	+ 125	別途会計
8. 公民館建設基金	5,000	0	+5,000	基金積み立て
9. 予 備 費	2,101	1,756	+ 345	
合 計	30,361	30,261	+ 100	

クラブ紹介 (11)

参 青 会 (三区)

会長 今川 和 夫

我々の会は、下市田三区参青会と称します。年齢十八才から三十五才までの、下市田三区に在住する男性により組織しております。会の目的として、下市田三区の若者の親睦を深めるとともに、会相互の連帯及び活動を通じて力行会の発展に寄与することを目的としております。会独自の活動として、綿菓子・金魚すくい等を出店しております。

素人のやっていることでもあり、手際の悪さばかり目立ってしまいましたが、自分達でやったんだ」という満足感を味わえました。

このように、身近な仲間と親睦を深め、地域活動に積極的に参加して会員の協力・団結を尚一層深めて飛躍していく考えです。

皆さんも、いろいろな活動・行事に参加して仲間を作り、楽しい一時を過ごしてみてはいかがでしょう。



第六回下市田公民館カラオケ大会



史跡めぐりシリーズ(15)

下市田古墳と高岡一号古墳

北原金 二(二区)

飯田下伊那には六八〇余基の古墳があります。下市田の金部一号古墳(畑中の塚)の特色は有段式古墳です。武陵地一号古墳は石室に朱を塗った装飾古墳として特色があり、円墳としては郡下で共に有名な古墳です。

飯田下伊那には、前方後円墳は二十三基あります。その内五基が県の重要文化財に指定されていて、大切に保存されており、その名称をあげると、北から座光寺の高岡一号古墳、上郷町の雲彩寺古墳、飯田市桐林・川路の御猿堂古墳、二子塚古墳、馬背塚古墳です。どれもそれぞれ特色があつて、古墳を研究する上でも、学術的にも貴重な意義があります。

紙面の都合で、簡単に各古墳の特色を古い方から記載すると、御猿堂古墳が古墳時代中期に構築され、大きき六十七mあり出土した副葬品の円形埴輪二十三、白



六・六mで規模は小形であるが、前方部・後円部共に石室がある。両石室共に羨道・玄室がよく整つて居り、規模・架構の壮大さは、長野県最大級の石室として貴重であります。

雲彩寺古墳は郡下一番の大きな古墳にて、長さ七十四・五mあり、玄室の一部がお寺の敷地となつていて原形を完全に残していないが羨道は羨門が閉鎖されて居たので羨道は完全な形で保存されている。副葬品として出土した、馬具に使用したと思われる大型の馬鈴

武陵地一号古墳

が二個寺室として保存されている。前方部が墓地となつていて、鎌倉権五郎影正の墓がある。

高岡一号古墳は、国道一五三号線を下市田から南進すると、道路東側に本古墳がある。北から石段を登ると神社がある。ここが古墳の後円部です。石段の附近及び後円部の斜面に人の頭ぐらいの石にて葺石をして封土が崩れない様に敷きつめられている。この葺石のあるのはこの塚の特色です。神社の裏から南方を見ると中程にくびれの部分があり前方部と続いています。規模も大きく七十二mあり、郡下二番目にて、原形をよく残して整つた美しい古墳です。後円部の高さ五・五m、前方部の高さ八mで幅は共に四十mです。社殿のうしろより南に下ると墳丘の中段に地平面より十二m余高いところに石室があります。中に入ると長さ五・五m、幅一・八m、高さ二m、上に行くにしたがつて狭くなっています。墳丘の大きい割合に石室は小さいが、石室のいちいち面に朱を塗られている装飾古墳です。石室が有段式で装飾石室である事は此の古墳の大きな



金部一号古墳

特色です。

高岡古墳の墳丘や石室のあり方に依り、本古墳は古墳時代後期七世紀初期に構築されたと予測されます。副葬品の多くは座光寺公民館に保管されている。

下市田金部一号古墳は有段式古墳であり、武陵地一号古墳は朱を塗られた装飾石室です。

高岡古墳の特色の一つである有段式石室、装飾石室が共によく似たところにある

り、郡下に例のない、地平面より二m余の高い基台の上に巨石を積んだ石室の土木技術、得難い朱を入手して石室に装飾した学術的知識等両方に関連があり、構築の時期、其の他いろいろと興味を持たれます。



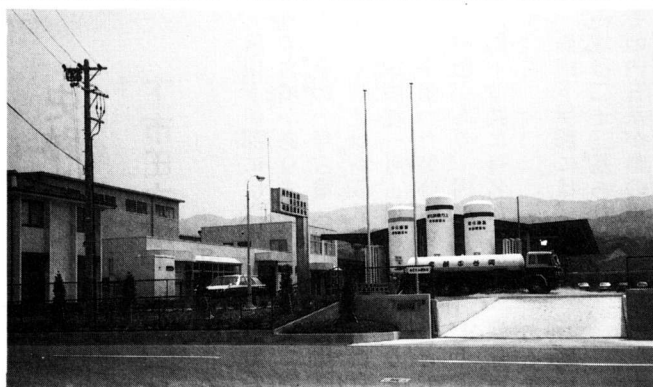
下市田工業団地シリーズ

4

あらゆるガスを通して 地域社会に貢献する

岡谷酸素株式会社飯田営業所

すばらしい環境のこの下市田工業団地に私どもが営業所並びに工場を完成させましたのが昨年の八月で早いもので十ヶ月が経ちました。これもひとえに高森町長さんはじめ関係各位又地域の皆様のおかげと感謝申



所があり、従業員は三〇〇名、昨年度の売上高は一〇億円です。飯田営業所を紹介させていただきまずと、当営業所には酸素、窒素、炭酸ガスの三種の製造設備があります。工場が完成する以前はこれらのガスは岡谷・松本より運搬して来ていた訳ですが、工場が完成して以来飯田地区で使用されるこれらのガスは全てこの工場でもかなえるようになりより安

定供給ができるようになりました。これらのガスの他にあらゆるガスも供給できる体制を整えることができました。これらのガスは産業の発展、社会生活の向上にともない需要は毎年伸びております。皆様はおわかりにくいと思いますが、これらのガスの用途を紹介しますと次のような分野に分けられます。(一)燃料用ガス、(二)溶接・切断用ガス、(三)レーザー用ガス、(四)半導体向けガス、(五)熱処理用ガス、(六)食品産業用ガス、(七)医療向けガス、等です。各種の

ガスはそれぞれの特性により極低温から超高温までのエネルギーとしてますますその利用分野が期待されています。ガスの製造販売の他に、これに関連する産業機械の販売も当飯田営業所の仕事です。長野県は内陸型の地形の特性から知識集約化が進み、精密・電子・自動車部品等、先端技術の導入には著しいものがあります。



団地進出の御挨拶

有限会社小笠原鉄工高森工場

先見性に富んだ行政施策に、景況の安定に伴い、スピーディーな団地化が創出されている下市田工業団地。天竜河畔田園地帯のこの優れた環境の中に、行政始め関係機関各位のお力添えを賜り、支店工場の進出が果せましたことを深く感謝申し上げます。又、今後下市田地域の皆様に、企業といまして宜しく御願いを申し上げます。

私共の会社は、阿智村に本社工場をおき、創業四十五年を経過しました。郡下の各建設会社始め、皆様の御愛顧をいただき、順次業容を拡大し今日を迎えることができました。昨今、各方面からの生産増強の要請をいただき、対応の検討を始めましたところ、全く順調に当団地への進出が決定し、当町への受入れをいただきました。直営にて施工を進めてきた工場建設も、短期間に完成し、四月一日

より稼働を始めています。近年、建築工事の基軸をなす鉄骨工事は、その技術力が重要視され、建設大臣認定という制度が確立されている訳ですが、私共の会社も多年に亘る技術力の蓄積の結果、制度施行の当初段階より、現在郡下では二社のみ大臣認定工場として、建築鉄骨の加工組立を行っています。受注範囲も郡下は元より、中南信・中京・関東と各地域からのネットワークをもち、工場・ビル建設といった比較的大型の鉄骨工事が主である訳

ですが、地元の物件につきましては、御下命いただければ小規模の工事にも対応して参る所存でございます。又当社は鉄骨工事と共に、建築工事のA級工事業者として、工場・店舗から木造住宅に至るまで総合請負もいたしています。

順次、更にスタッフをそろえ充実を計り、建築工事の骨組である優れた鉄骨の供給を通じ地域社会に貢献して参る所存であります。今後共皆様の御支援を宜しく御願い申し上げます。

萩山神社氏子総代紹介

総代長あいさつ

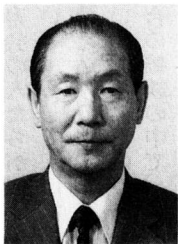
この度下市田区の氏子総代として私他加藤清敬・仲平里司・小林恵・桃沢利一・林広司の各氏が萩山神社の祭祀に奉仕することになりました。

三年間の経験をいかして先輩の皆様にも負けることなく一生けんめいに務める覚悟でございます。

氏子の皆様方の御支援をお願い致す次第でございます。うわけでございます。



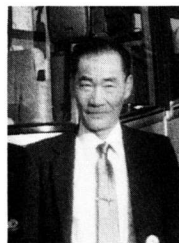
仲平里司



副総代長
加藤清敬



総代長
西村東一郎



林 広司



桃沢利一



小林 恵

三太郎の日記

三島 勤

某月某日、朝の通勤時間帯。吾が愛する朽車は横断歩道にさしかかり、手前でストップ。児童等は足早に渡り終るや此方を見て、ベコリとオジギを一つ。此処は下市田地区。更に上郷地区へ進み、同じ様な場面に出るのだが、此所では此のベコリが省かれるのである。朝はみんな先を急ぐ。だが「ありがたい」のベコリにジンとくるものを感じるのは、此のオジンだけかな？。小さな感謝。羨、羨。朝霧ようやく去って、太陽がのぞき出した。

某月某日、おつかれの夜、つれづれなるままに、スイッチオン。NHK「本の表紙ばかり替えても、中身を改めなければ駄目だ」白虎隊の血を引く会津の「先生」がいみじくも「ガッパ」された一言。感銘し、そして深い夢路に入りました。

某月某日、キンコンカン。キンコンカン。さわやかな日曜の朝。「オジサン、廃品を御願いします」。「御苦労さん。新聞があるが、バラバラだよ」。「私達が揃えますから」。乱雑な古新聞の山をセッセと揃え、

リヤカーに積む。ホッベタの赤い二人の中学女生徒。「有名高校、有名大学を目指すもよからう。だが人の陰で黙々と努力する人も貴重なんだよ」と口には出さんが心の中。何かオダチンをとさがしたが、あいにく今日は（今日もかな）プロレタリアで、在庫なし。「ゴメンナ」生徒は足音軽く去って行く。太陽は昇る。「さあ、オジンもヤルデー」。

四十年前の某月某日 所はシベリヤ日本人捕虜収容所内。

「今日も暮れ行く 異国の丘」

三太郎「近頃肉や砂糖がソ聯官舎に横流しされて、私達への配給が少なくてこまる」。

ソ聯将校「現場を見たのか？ 誰が流している」。

三太郎「炊事の兵が云っている」。

ソ聯将校「オマエは捕虜だぞー、文句を云うな」。

腰の拳銃とピカピカの長靴が此のマブタに焼きついて「四十年」。勝てば官軍。いつも最後に出るのは「お前達は捕虜だぞー」。時はペレストロイカのゴルバチョフさんではなくて、スターリン時代のこと。

天山オロシの風は冷たく、ふるさとの山は遠い。

ああ、ああ、センソウはアカン。

某月某日、陽光まぶしい晩春の朝、雑草の生命力のシタカサに感服？して、くたびれた草かきを使っている。一寸動いては哲学のけむり。クサビがゆるんで抜ける。みみずが三匹ものトトトト、ふと静けさを破り近づく軽エンジンの音。

「一寸やってやれか」。

「忙しいのにすんません」。

スーイ。スーイ。

雑草養殖畑がみるみる黒土の美畑に姿を変える。

「文明の利器」。

「雨にくずれた坂道を 山のような荷車が」。

空腹の帰途、昔の唱歌を肚の中でウナリ乍ら。

「汝の隣人を愛す人」にありがとうを捧げた。

本当によい朝。オジンはしあわせ。



壁のらくがきを消してきれいに！

—下市田駅南の地下歩道—

田口正幸

地下歩道は毎年近くの高寿会の人たちが掃除をしている。そして入口には花の植え込みの鉢がたくさん置いてある。このごろある会合の雑談の中で、地下歩道の壁のらくがきがひどくなって困ったもんだ。みつともない。なんとかならないか。と、話が出た。最近北側の壁に黒色のスプレーで大きくらくがきがかかれてしまった。地下歩道を通る人はみんないい気持ちがないだろう。なんとか消さないか。どこへ言ったらいいのか。このまま放置しておけば、子どもたちの中にはらくがきをしてよい場所のように思う子どももあるかもわからん。この地下歩道が完成して一年もたたない頃、南側の壁の真中ごろに黒と赤のスプレーで「影道・シャドー」と大きく吹きつけられ、壁の色もまだきれいだっただけでびっくりした。こんなわるさを書くとは困ったもんだと話しながら通って、十年近くもそのままにしておいた

話題用語

(怪説)

一、リクルート

汚職の代名詞のようになって此の言葉ももともとは「新入生、新人募集」と言う普通名詞。

同社で働く社員は、炭鉱節ではないが「さぞや、付き合いが煙たかろう」と思っています。しかしヤングの居る家庭なら、きつとこの会社発行の本が一冊や二冊はあるはず。社員の努力と、社長の行為は何時も一致するとは限らんナン。(子息が同社勤務の親の嘆きを)

二、藪の中

聞きて)

天才、芥川龍之介の小説。人は自分の都合で(主観で)同じ物について、いろいろな異なった申し立てをすると言う主題。妻を盗まれた武士(死霊)、盗賊、目撃者が登場し異なった証言をする。「えっ！二億円の投棄竹藪のことか？」「そう言えば似てるナン。さすが龍之介は鬼才だナム。」

随想

最近思うこと

林 隆 俊 (二区)

今年は天皇陛下の御逝去により、私達国民は悲しみの幕明けとなりました。しかし、新しい世代を迎え、又「平成」と言う素晴らしい年号の誕生と共に皆平和を願ったものであります。そして今は「ルンレン、ウキウキ」と春の訪れと共に心良い新緑の季節を迎えました。小・中学校の桜のピンク色はすでに散り、つじが今を盛りと咲いています。我が家の庭も、丹精して育ててきた花木が、所狭しと咲いて、毎日心豊かに楽しませてくれています。先日妻と小旅行としゃれてみました。道中どこへ参りましても目のさめる様な素晴らしい芽吹きが、多色のグリーンを色彩かに表現し、私達の心をふるいたたせてくれました。濃い部分と新芽の処をはっきりさせて、更にその部分が新鮮で美しい姿として一節ずつの成長を感じさせられました。心の平和とは裏腹に、世の中は揺れに揺れている時でもあります。リクルート

及は不発に終り明らかにされないまま捜査を打切る。この様な悲しい事が何時になっても繰り返されるのはやりきれません。御家族の事を思う時、胸が痛む思いです。もっとおらかな正しい政治が出来ないものでしょうか。信頼出来る民主政治の実現は、私達国民の選挙権にあつて、清き一票が、くつがえされた政治であつてはならないことを政治家の方々に今一度自覚していただき度いものです。個人の利欲を反省し、責任のがれをしない、都合の良い言い訳をしない、正しい政治を御願いしたいと共に、私達自身の役目も再度問う時に来ているのではないのでしょうか。



変わりゆく中で

小宮山 佳子(出砂原)

「ガタガタ」「ドドッ」と、ものすごい音が響く。南風によって砂ぼこりが舞いあがり、強い振動が地面を這って伝わってくる。こんな状況が、かれこれ二週間くらい続いた或る日、道路に面していた大きな壁がくずれ落ち、まとまった砂塵が吹き抜けて、突然に視界が広がった。

この建物は、かつてT工業が所有していたもので、事業拡張となり、増築された部分である。

それ以前は、水田であった。さわやかな風がレンゲ草の甘い香りを運んでくれたり、田植えが終わった頃には、蛙が競って鳴き声を聞かせてくれたものである。

我が家の近くの水田が、たちまち工場に替わった時も、朝夕の通勤者の数が増えていき、近辺の様子が日毎に変わっていったのも、個人の気にとめることもなく、当然の変化であった。ただ、赤い鉢巻きをした若者たちが、手を繋



ぎ工場をとりかこんで、大合唱をしているのを目にした時は、テレビでしか知らなかった私には、身近すぎて驚きもした。

間もなくオイルショックなどの波が、工場閉鎖をよび、その後、別の事業所の所有へと移った。しかし、その工場も、下市田工業団地へ移転して空き家となっていた。

聞くところによると、此の度の取り壊しは、道路を

すばらしい子どもさんたち

(体験学習より)

玉置 俊通(四区)

「……昨日と今日は、六年生として、みんなと仲よくできるよう、楽しくできよう、がんばろうと思いました。団体生活が、こんなに楽しいんだなあ、ということがわかりました。楽しくできたことは、みんなが協力しあったからこそできたので、とてもうれい

です。……(林 美香さん)書き直す時間もなく、一

気に書きおろした作文の一節です。「団体生活と協力の尊さ」を、しみじみと物語っています。

「……生活改善センターを出て、少年自然の家まで

あけるためだという。市田駅前から南への路線を、下市田方面へ延長させるものとか。

農地から工場へ、そして道路へと、土地利用の変遷を、身近で見つめながら、また、いつの日かどんな形に姿を替えていくのだろうかと、あれこれ思いをめぐらせてみる。

今日もまだ、地面をゆるがせて、瓦礫の撤去作業が続けられている。

志帆美さんは、燃えている。「自分のもっていたらうそくに火がついて、火を見たら、べんきょうをはやくできるようにすると、ちかいました。」(代田貞治君)

二年生の書いた一節です。あどけない二年生が、誓いをする。いったい何がこの心境をもたらしたのだろうか。

配でした。でも苦勞のかいがあり、上手にできました。こんなにたくさん思い出ができて、とっても良かったです。来年もぜったい来たいです。」(原 志帆美さん)「心配でした。」「でも苦勞のかいがあり」と、けなげに取り組んだあの充実感。そして「来年もぜったい来たいです」といわせたものは何んだらう。



「みんな楽しくやっていると、む中になってしまふから、ほかのことなんかわすれてしまふ。だからおもしろいです。」(原 友美さん)

原友美さんが、すべてをしめくってくれたようです。四区の子どもさんたちは、すばらしい力を潜在している、つくづく知らされました。寝ぐらを移した程度の二日でしたが、貸切りバスの大旅行より良かったように思います。とにかく、その土壌が各ご家庭にあったからこそ思うことしきりです。

「職員をまとめる役目なので、しっかりやらなければ

「……キャンデルサービ

「……キャンデルサービ

「……キャンデルサービ

小中学生の作文

陸上大会

小六 坂牧史隆 (二区)

五月七日、飯田下伊那陸上競技大会がありました。ぼくは、先生にすすめられて男子の百メートル走に出ました。雨がふって風も強くふいていたので、「できるかなあ」と思いながら出かけた。練習をせんぜんしなかったで、飯田総合グラウンドで少し練習をしました。むかい風が強く、思うように走れませんでした。

集合の時間になりました。長ズボンをぬいで、半ズボンになりました。ぼくは、一組の二コースでした。スターティングブロックをち

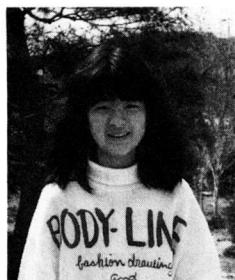


ようどいいようにしました。走れるかと思いきどキドキしてしまいました。いよいよ、スターティングブロックの後に立ちました。「いちに

せいにスタートをしました。いっしょうけんめい走ったけれどむかい風だったのでたいへんでした。ぼくは、一組の中で二位でした。タイムレースなので放送を聞かないと分からないのでふべんでした。ぼくは、七位でなんとか決勝戦に出れました。「決勝戦ははだしで走りなさい」とお母さんに言われたのでそうしました。決勝戦になりました。五位

中学生になって

中一 佐々木裕子 (五区)



四月三日、高森中学校で入学式がありました。

私は、一年五組になり、担任の先生は、唐沢武彦先生になりました。

中学校の中に入った時、「私は、もう中学生になったんだなあ。」と実感しました。

部活は、バスケットボール部に入り、クラブは、家庭科クラブに入りました。

うと、いねわりをしてしまします。だから、いつも勉強する時間がだいたい八時ごろになり、ねるの、十時ごろになっていきます。だから、ほとんど、学校へ行ったっきりで、兄弟とあまり、遊ぶ時間がないので、時々つまらない時があります。

でも、はなればなれになったわけじゃないので、つまらなくても、しっかりやっています。

中学校は、小学校とちがうので、あまり、お父さん

編集委員紹介

どうぞよろしく

委員長 松下武平

副委員長 松島重人

会計 三島勤

下市田公民館長 唐澤武文

下市田公民館副館長 田口正幸

主事 田口登志子

委員 三島清美

北沢貞子

上原ふみ子

中塚加代子

宮内猛夫

小木曾和子

木村隆夫

棚田達子

編集後記

◎平成に改まり、区報も新しい感覚で取組み「読まれる区報」づくりを目標に編集委員一同頑張っています。

◎第十五号は、区関係役員の紹介等で増頁と致しました。

◎よりよい区報制作のため各戸の区報に対するアンケートを集めます。ご協力下さい。

◎人には優しく自分にはきびしく、という感じがです。

まだまだまだ中学校生活は長いので、その中で、これはいけないなと思ったらその場で考えて行動し、りっぱな、中学校生活だったな、と、いうふうに、こ

委員 小島俊彦

福沢みつ恵

水野みつ江

岡村紋子